

所沢市 財政トークス



第29号「平成30年度決算」
所沢市財務部財政課 令和元年12月発行

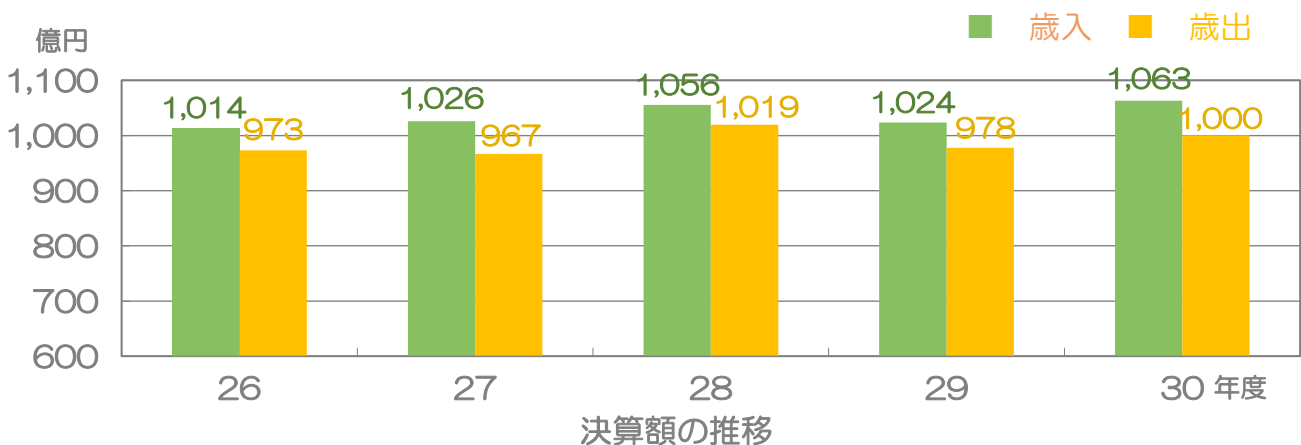
所沢市の財政について、わかりやすくお伝えするために発行している所沢市財政トークス。今号は、平成30年度決算について、「1 所沢市の財政規模」「2 歳入決算」「3 歳出決算」「4 貯金と借金」「5 指標でみる所沢市の財政」の5本立てでご紹介します。

財政に詳しい方も、普段あまりなじみのない方も、この機会に、所沢市の財政について新しい発見をしていただき、興味を持っていただけたら幸いです。

1 所沢市の財政規模

Q. 所沢市の普通会計では、どのくらいのお金を使っているの？

A. だいたい1,000億円くらいのお金を使っています



所沢市の決算額は、年々増加傾向にあり、平成26年度に初めて歳入が1,000億円を超え、28年度には初めて歳入・歳出ともに1,000億円を超えました。

歳入と歳出の差額は、繰越金として翌年度の歳入に組み込まれます。



決算は【普通会計】で算出しています

【普通会計】は、各自治体の財政状況を、相互に比較するために用いられる全国共通の会計区分です。所沢市では、「一般会計」+「下水道事業会計の一部」+「土地区画整理特別会計」が普通会計となります。

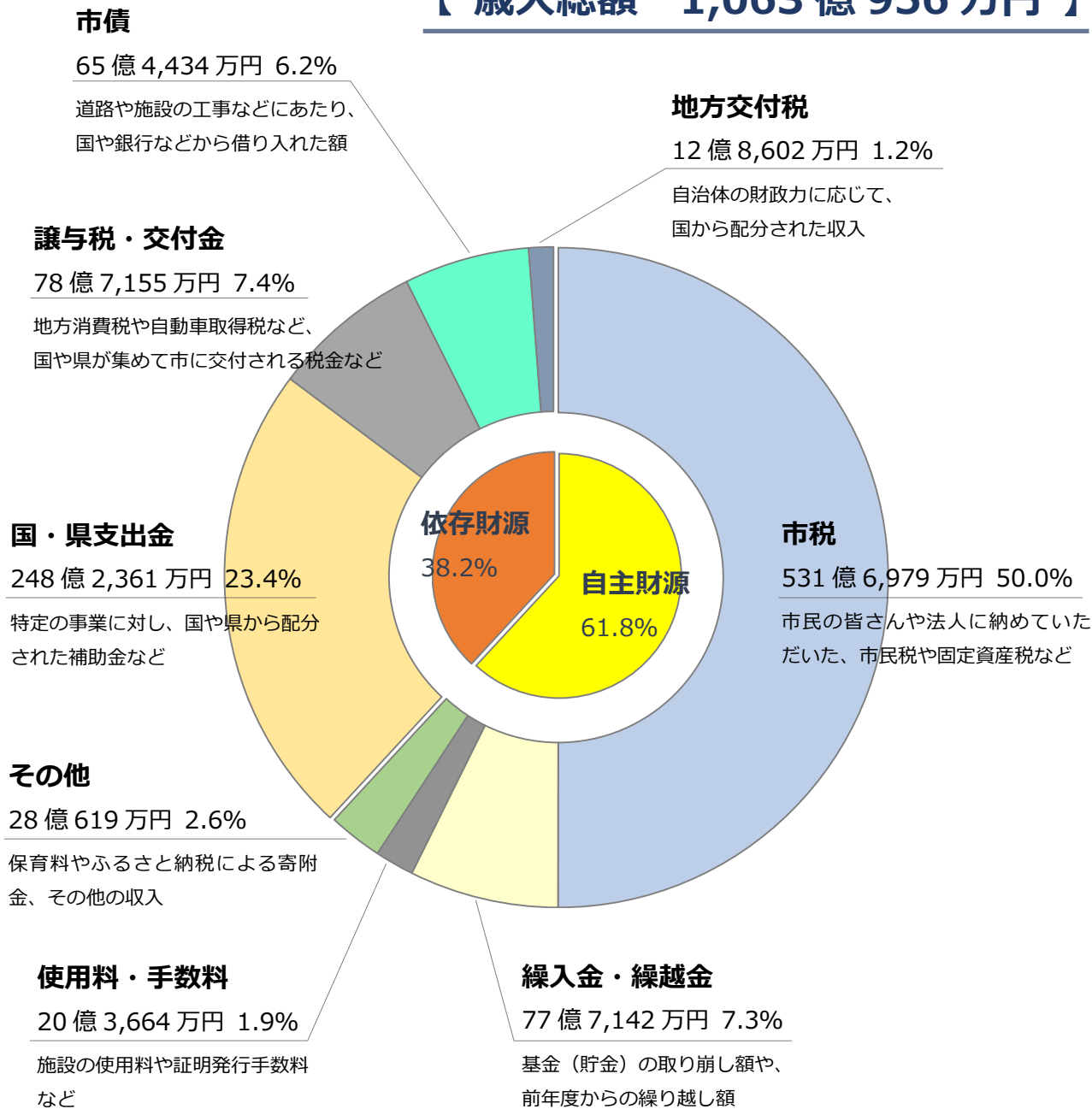
今号では、この【普通会計】で所沢市の決算をご紹介します。

2 歳入決算

Q. どんな収入があったの？

A. 【市税】が一番多く、全体の50%を占めています

【歳入総額 1,063 億 956 万円】



前年度と比べ、「国・県補助金」「市債」が増えました

歳入は、平成 29 年度と比べると、約 39 億円の増となりました。このうち、大きな要因となったのが、国・県補助金（約 19 億円の増）、市債（約 11 億円の増）です。

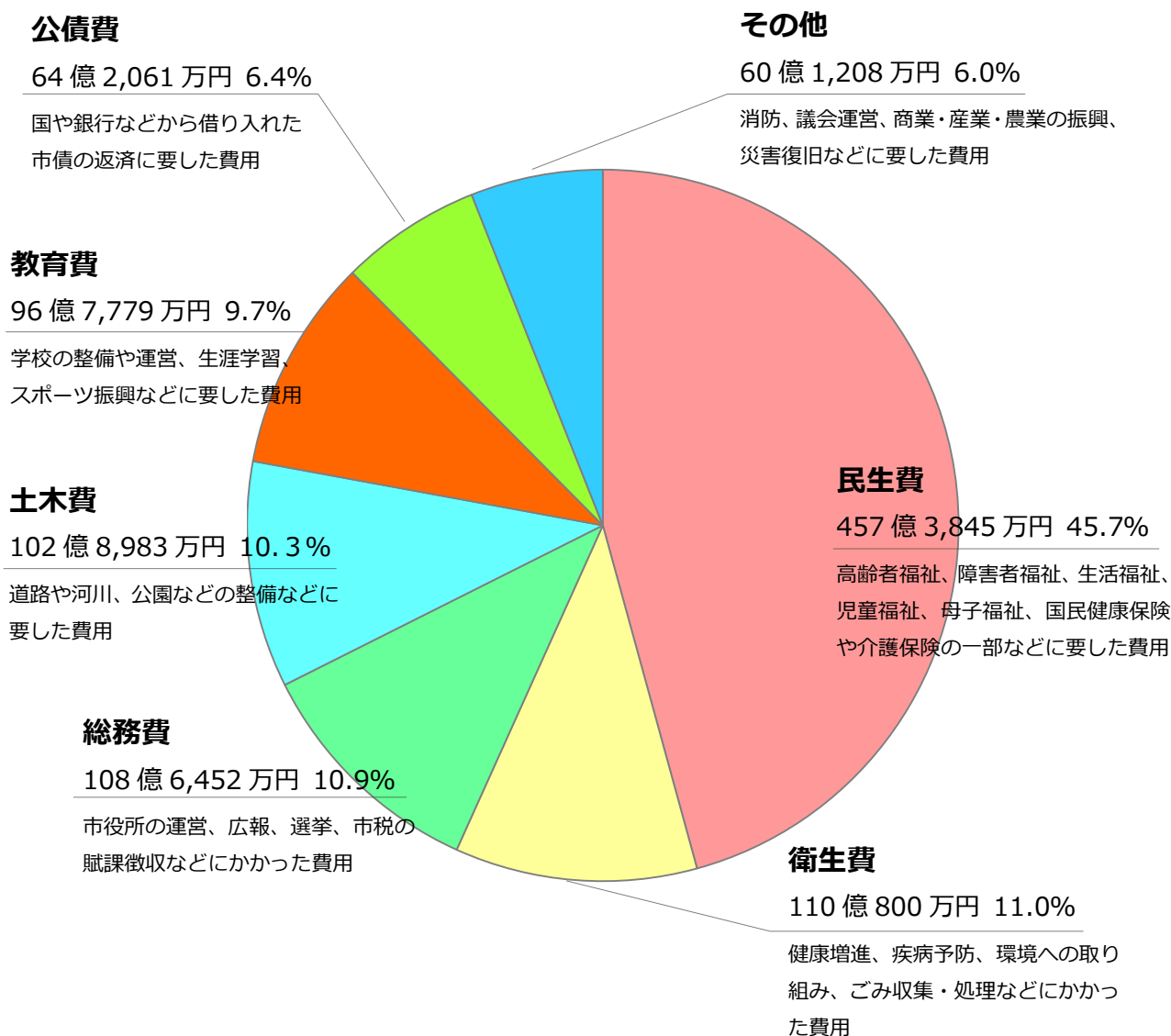
このことから、平成 30 年度では、国や県の補助を受けて行う事業や、公共施設の整備などに多くのお金を要していたことがわかります。

3 歳出決算

Q. どんな支出があったの？

A. 目的別に分けると、一番多いのは、福祉などに使う【民生費】です

【 歳出総額 1,000 億 1,128 万円 】



市民 1 人あたりの金額にすると…

歳出総額を所沢市の人口で割ると、1 人当たりの金額は 29 万 805 円 です。それぞれの目的別の内訳では以下のようになります。

民生費	13 万 2,995 円	衛生費	3 万 2,008 円	総務費	3 万 1,591 円
土木費	2 万 9,920 円	教育費	2 万 8,140 円	公債費	1 万 8,669 円
その他 (消防費・議会費・災害復旧費・商工費・農林水産業費・労働費)	1 万 7,482 円				

改めて、民生費の割合が大きいことがわかりますね。

Q. 支出はどのくらい増えているの？

A. 平成 29 年度と比較して、22 億 4,675 万円増えています。

平成 30 年度の歳出は、平成 29 年度と比較して、約 2.3%の増額となりました。増額の大きな要因となったのは、土木費と衛生費であった一方、民生費は減額となりました。



土木費

+19 億 4,493 万円

道路や河川、公園の整備などにかかる土木費は、平成 29 年度から約 2%増えました。

主な増額要因としては、所沢駅周辺で実施している所沢駅西口土地区画整理事業や、日東地区（日吉町、東町）におけるまちづくり事業の 2 事業に、約 13 億 2,500 万円を要したことなどが挙げられます。



衛生費

+14 億 7,239 万円

健康増進、疾病予防、環境への取り組み、ごみ収集・処理などにかかる衛生費は、平成 29 年度から約 1.5%増えました。

主な増額要因としては、平成 15 年に建設された東部クリーンセンターの延命化工事が始まり、工事費などで約 13 億円を要したことなどが挙げられます。



民生費

-25 億 3,099 万円

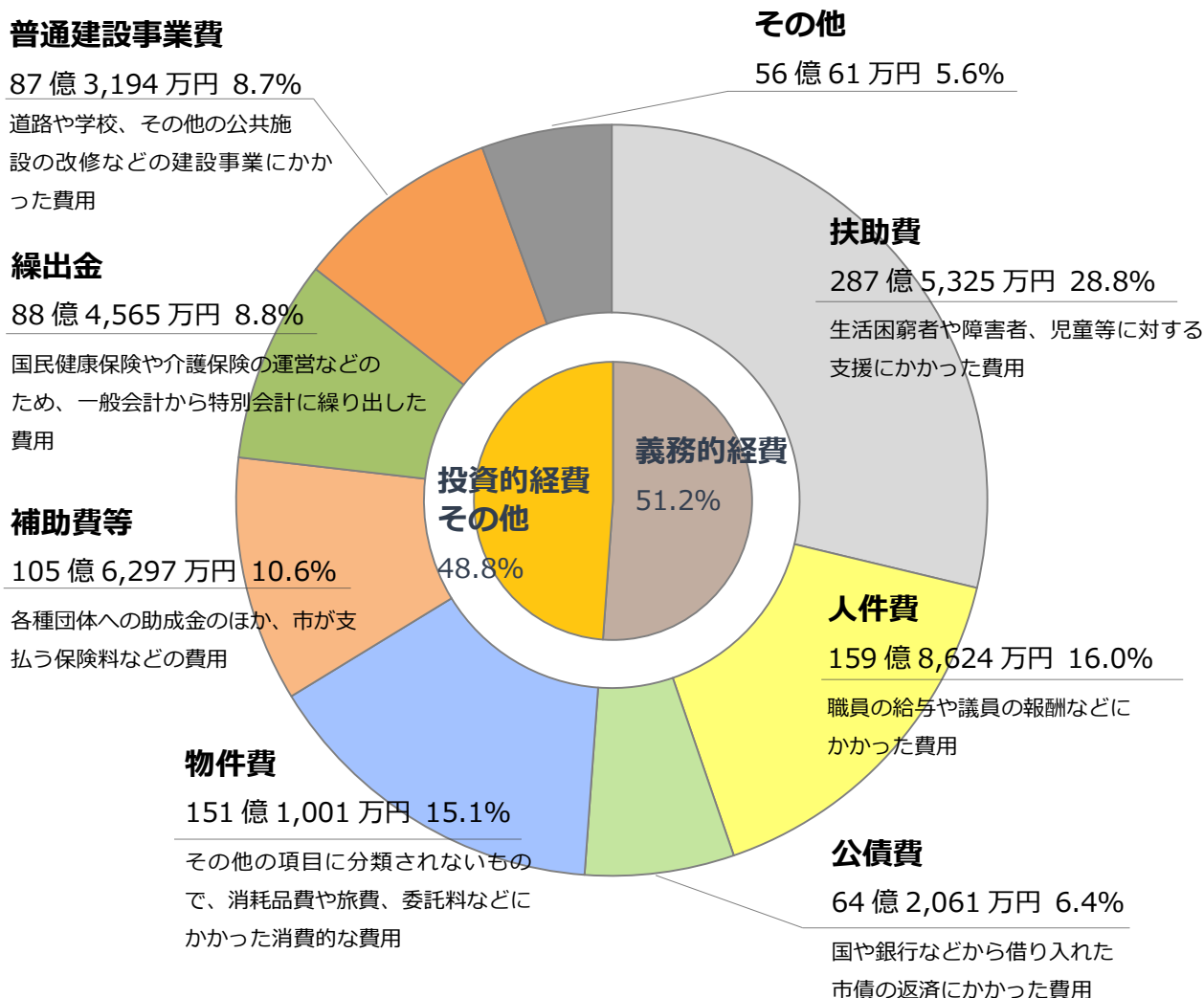
福祉や国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療保険の一部にかかる民生費は、平成 29 年度から約 2.6%減りました。

主な減額要因としては、これまで市町村が保険者となって運営してきた国民健康保険について、市町村と都道府県が共同保険者となって運営を行うようになったこと（国民健康保険の広域化）によって、市の負担が減り、国民健康保険特別会計の赤字分を補てんするための、一般会計から国民健康保険特別会計への繰出金が、平成 29 年度から約 23 億 8,000 万円減額となったことが挙げられます。

Q. 人件費はどのくらいかかっているの？

A. 性質別の内訳では、159億8,624万円となります

自治体の歳出は、3ページでご紹介した「目的別」と、このページでご紹介する、経済的性質を基準として分類した「性質別」の2通りの分類方法により、集計されます。



「財政の硬直度」の指標を見てみよう！

グラフの真ん中にある「義務的経費」は、扶助費、人件費、公債費といった、支出が義務的で、市の判断で削減ができない経費を指します。この経費の歳出総額に占める割合を「義務的経費比率」といい、この率が高くなると、財政運営の自由度が下がり「財政の硬直化」につながります。

所沢市の義務的経費比率は、平成30年度で51.2%でした。(平成29年度は53.0%、平成28年度は51.3%でした)

なお、埼玉県内の市町村の平均が51.8%でしたので、県内では大体平均ぐらいの水準となります。

4 貯金と借金

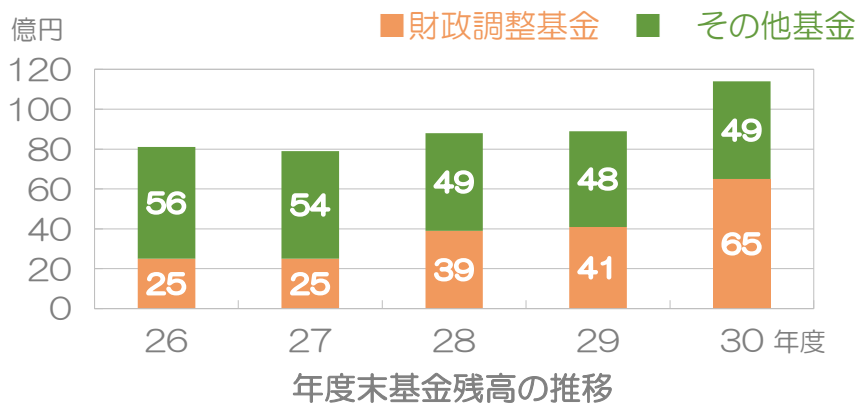
Q. 貯金の額はどのくらい？

A. 平成30年度末の基金残高は、114億1,844万円です

基金は、特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立てるもので、自治体の貯金とも言えるものです。

所沢市の普通会計では、急激な歳入の減や、突発的な歳出の増に備えて積み立てる「財政調整基金」、公共施設の整備を行う「施設整備基金」をはじめ、以下の13種類の基金があり、必要に応じて、取り崩しや積み立てを行っています。

土地開発基金	入学準備貸付基金	福祉資金貸付基金
交通遺児奨学基金	財政調整基金	緑の基金
道路整備基金	中心市街地再開発整備基金	小・中学生スポーツ振興基金
施設整備基金	ふるさと応援基金	マチごとエコタウン推進基金
地域産業活性化基金		



財政調整基金

+24億2,971万円

前年度の繰越金（歳出と歳入の差額）による積立額が、約24億4,251万円であったのに対し、取り崩し額は、約1,280万円でした。

一般会計から国民健康保険特別会計への繰出金が、前年度から、約23億8,000万円減額となったこと（5ページ「民生費」参照）などが影響したものです。



緑の基金

-1億2,996万円

積立額が約161万円であったのに対し、取り崩し額が約1億3,156万円でした。

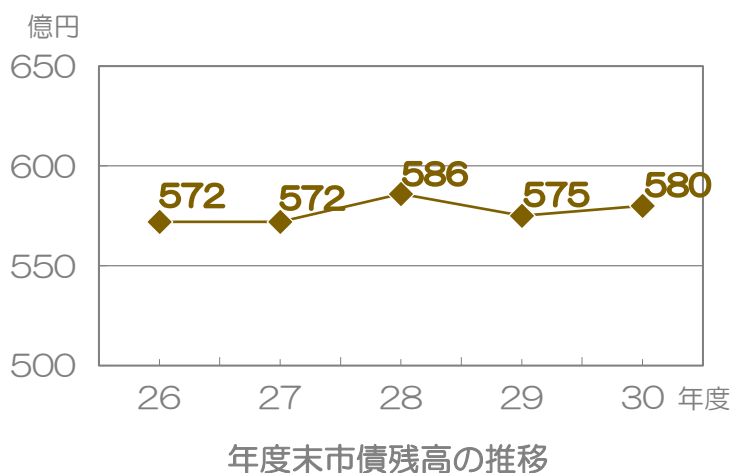
保全緑地用地購入のための取り崩し額が、約1億3,007万円であったことなどが影響したものです。

Q. どのくらい借金があるの？

A. 平成 30 年度末の市債残高は、579 億 6,642 万円です

公共施設の整備には、一時的に多額の経費が必要になります。これを、その年度の収入だけで賄おうとすると、他の事業に経費が回らなくなってしまいます。また、公共施設は、建設時の市民の方々だけでなく将来的に多くの方が利用するものです。

こうしたことから「年度間の財源平準化」、「世代間の財政負担の公平化」のため、市が国や銀行などから、耐用年数に応じた期間で借入れを行います。この借入額を「市債」といいます。



Q. 借金がたくさんあっても大丈夫なの？

A. 財政指標では、健全の範囲となっています

借金（市債）の金額が身の丈に合ったものかを確認するための指標として、「実質公債費比率」というものがあります。市の収入に対する、公債費（市債の返済額）の割合を示したもので、25%を超えると、新たな借金をするのに制限が出てきます。

所沢市の実質公債費比率は、2.4%であり、良好な状態であるといえます。



県内 40 市中、10 位でした

埼玉県内の 40 市の実質公債費比率の平均値は 4.6% で、所沢市は 10 番目に値の低い市でした。なお、比較的人口規模の近い市（人口 20 万人台～30 万人台）については以下のとおりでした。

- 川越市 5.3%/27 位
- 越谷市 7.2%/35 位
- 草加市 4.2%/18 位
- 春日部市 3.9%/16 位
- 上尾市 4.5%/23 位

5 指標で見る所沢市の財政

自治体の決算では、全国の自治体で行われている決算調製の結果を、自治体同士で比較できるようにするため、全国共通の多くの指標が用いられています。

ここまで、5ページで「義務的経費比率」、7ページで「実質公債費比率」をご紹介してきましたが、新たな2つの指標から、所沢市の財政状況をさらに見ていきます。



ズバリ！所沢市の「財政力」は？

— 財政力指数 —

0.971 (県内7位)

各市町村の規模ごとに、適切な行政サービスや公共施設維持などに必要とされるであろう経費（①基準財政需要額）と、収入が見込まれる税金など（②基準財政収入額）を算出し、②÷①で出した数値の、過去3年分の平均値を「財政力指数」といいます。

この数値が大きいほど、財源（収入）に余裕がある状態となり、1を超えると、その自治体の収入のみで財政運営ができるものとして、国からの普通交付税が交付されません。

所沢市の財政力指数は、0.971で、これは県内40市の平均0.868を大きく上回り、7番目に高い数値でした。

なお、県内の市で1を超えたのは以下の3市で、生産年齢人口比率が高かったり、商工業の発展などにより、市税収入が大きいといった特徴を持っています。

■埼玉県内市 BEST 3 ① 戸田市 (1.247) ② 和光市 (1.041) ③ 八潮市 (1.014)



自由に使えるお金はどのくらい？

— 経常収支比率 —

94.0% (県内24位)

人件費、扶助費、公債費など毎年度経常的に支出される経費に対し、市税、地方交付税など、毎年度経常的に収入される経費がどのくらい使われているかを表す指標を「経常収支比率」といいます。

この指標では財政の弾力化を測ることができ、数値が大きいほど、自由に使えるお金が少なく、財政の硬直化が進んでいるといえます。

所沢市は、平成29年度の94.9%から少し改善し、94.0%となりました。これは県内40市のうち24位でした。なお県内40市の平均値は、94.3%でした。

ちなみに、ちょうど10年前、平成20年度の所沢市の数値は、91.6%でした。自由に使えるお金、だんだん減っているんですね…。

■埼玉県内市 BEST 3 ① 八潮市 (85.2) ② 深谷市 (85.2) ③ 戸田市 (87.3)